



伝染性膿痂疹(とびひ)

虫刺されや擦り傷を掻いているうちに、豆粒くらいの水疱ができて、それが次から次へと広がっていきます。黄色ブドウ球菌の感染により起こります。まれにA群β溶血性連鎖球菌(溶連菌)が原因となることもあります。

患部の直接接触を介して他の人にも伝染する(潜伏期間1-3日)ので、露出部にできていてガーゼ等で覆えない時は登園・登校を控えていただく場合もあります。ただし通気性の悪いバンドエイドなどで湿疹を覆うことは避けてください。

普通は抗生物質の外用と内服で3日ほどで改善に向かいます。アトピー性皮膚炎などでステロイド薬を外用している場合、難治化する場合があります。

病変部が広い場合には以下の対応をお願いします。

1) 兄弟・姉妹にもうつるので、シャワー浴とし、石鹸の泡でやさしく洗います。伝染を防ぐためタオルは別にしてください。洗濯物は日光の下でよく乾燥させてください。お風呂の足ふきマットについても同様です。

2) 入浴後は水疱になっている部分はつぶして、イソジン液またはヒビテン液で消毒します。よく乾燥させたあとに抗生物質の軟膏を塗ります。

3) 全身に広がっている場合はヒビテン浴を勧める場合もあります(5%ベンクロシド液の200~300倍希釈)。

*まれな合併症としてSSSS(ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群)、溶連菌感染後腎炎などがあります。

おくすりについて

”とびひ”には以下のようなお薬が処方されます。

- ぬりぐすり
ゲンタシン軟膏
亜鉛華軟膏
ボチシート(亜鉛華軟膏シート)
- 抗生物質(内服)
フロモックス
サワシリン など
- 抗ヒスタミン薬:かゆみをおさえます
サジテン ドライシロップ
ペミラストン ドライシロップ
ペリアクチン シロップ など